

ボランティア紹介

当病院で活動されているボランティアの方々の活動状況及び作品等をご紹介します。

外来支援

今回は、「外来支援」の活動をご紹介します。

当院のボランティアによる外来支援は、平成14年12月からの記録が残っています。当初は月・水・木曜日の9時から11時頃までの実施でした。現在は水曜日を除く週4日、4名の方に支援をいただいています。内容は、外来受付支援を中心に来院される皆様のご案内です。受付機の側に青・赤・緑・黄色の混在したエプロンをした方を見かけたらその方々が外来支援のボランティアです。いつも丁寧にお案内いただきありがとうございます。

11時半頃に活動を終わられ日誌を書かれて帰られます。その日誌の「活動中に気づいた事」の内容から様々な改善点が見出されています。不安をいっぱい抱いて来院される患者さんに代わり、これからもよろしくお願いいたします。

ボランティア担当:看護局 糸賀三恵子



▲火曜日の外来支援の様子

| 曜日 | メンバー名 | 支援時間 | ボランティア活動開始日 |
|----|-------|------------|-------------|
| 月曜 | ○藤○江 | 9:30~11:00 | H20. 6月8日~ |
| 火曜 | ○藤○江 | 7:30~11:30 | H19. 3月5日~ |
| 水曜 | なし | | |
| 木曜 | ○本○ | 8:00~11:00 | H19. 6月5日~ |
| 金曜 | ○藤○江 | 8:50~11:30 | H19. 3月8日~ |

【外来支援内容】
 1. 受付支援 (H20年より予約でも自動受付機を渡すようにになりご案内の件数が増)
 2. 病院内のご案内 (外来受付・検査室・検査室・心電)
 3. 患者手帳の回収
 4. 様々な問い合わせに対する支援 (分からない事は職員に連絡)
※支援活動で気づいた事は、「ボランティア活動日誌」に記入して頂いても、その内容より患者様のご苦情につながるような記載は控えてください。

ボランティア担当 看護局 糸賀 三恵子
1020.0.20

このエプロンが目印です!



ご意見 Q&A

電球のチェックを… 意見箱より

Q 処置灯の電球が切れてしまっていたが、非常に困ると思います。また、電球のソケットの所に綿ゴミがあり、最悪の場合火災になる可能性があると思います。全病棟チェックした方がいいと思います。

A 貴重なご意見誠にありがとうございました。早速、全病棟の調査をいたしましたところ、電球切れが3カ所あり、交換いたしました。また、処置灯の綿ゴミにつきましては、2病棟に一部十分な清掃ができておりませんでした。

これからは、病院内の環境整備を定期的に確認していく所存でございます。

ありがとう…

Q 私の人生において、入院手術という経験は初めてでした。全身が分解してしまいそうなショックの中の入院となりました。そんな中、主治医の先生や看護師さんの真剣なそして優しい対応に少しずつ気持ちがほぐれ手術の不安も恐怖も消滅していきました。術後の看病についても他の手術でヘトヘトにも拘わらず、様子を伺いに来て下さいました。患者の私に温かく向き合ってくださいました。涙が止まらない位感謝の気持ちで一杯です。「有り難う」の一言では言い表せず一言書かせていただきました。本当に有り難うございました。

A 初めての入院、手術を経験され不安な思いをされたこととお察しいたします。患者さんからのお便りを励みに、今後ともより良い診療や看護をめざし、チーム医療に取り組んでまいります。



ご意見をお待ちしております!

何かありましたら、各階にございます意見箱をご利用ください。メールによるご意見もお待ちしております。

E-mail: goiken@chubyoin.pref.ibaraki.jp

外来アンケート調査結果について

8月7日~8日に外来患者さん、付添の方を対象とした外来アンケート調査を実施いたしました。多数の方々にご回答いただきありがとうございます。

調査結果につきましては、外来及び当院ホームページにて公表いたしております。今後の患者サービス向上、信頼される病院づくりに役立ててまいります。

敷地内禁煙

当院の敷地内は全面禁煙となっております。喫煙者に対しては、禁煙カードをお渡ししております。皆様のご理解ご協力をお願いいたします。

喫煙者の皆様へ
 当院では、敷地内全面禁煙とさせていただきます。ご協力をお願いいたします。
 なお当院では、喫煙によって様々な健康被害をもたらすことから禁煙外来を開設しておりますので、受診をご希望される方は、内科外来へお申し出ください。
 病院長

編集後記

患者さん向けの広報誌ですが、多くの職員にも読んでいただけたら嬉しいかと、一編集員としては、願っています。

食欲の秋です。皆さんの好きな食べ物は何ですか? 小生は近所の料理屋が作る土瓶蒸しだったのですが、残念ながら閉店してしまいました…。

広報委員 N.K

看護師募集

●看護師を目指しているあなたへ
あなたのやる気を応援します。

●在宅のあなたへ
もう一度「看護の道」にチャレンジしてみませんか?

随時50名

あなたの成長とキャリアアップをサポートします!

*質の高い看護と魅力ある職場づくりに努力しています。
*教育、研修、安全管理体制をしっかりと整え、スタッフ全員であなたの成長を支援します。

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121 ホームページ <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/>

ほっとタイムズ



茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター

2008年10月
秋号
Vol.04

【編集・発行】茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター 〒309-1793 茨城県笠間市鯉淵6528 ☎0296-77-1121
ホームページ <http://www.pref.ibaraki.jp/bukyoku/hoken/cyubyo/>

ユリノキ
県立中央病院の玄関前に「ユリノキ」があり、四季折々の表情を見せてくれます。

- 院長メッセージP1
- 病院紹介コーナーP2
- 院内トピックスコーナーP2・3

目次

- 病気を知ろう:豆知識P3
- ボランティア紹介コーナーP4
- 患者様からのご意見Q&AP4

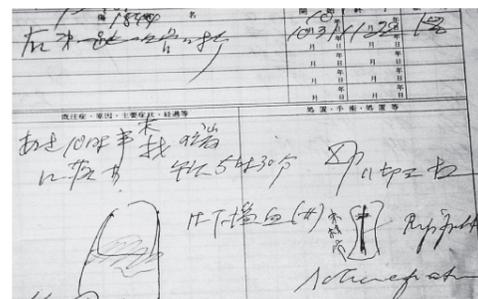
院長メッセージ



【第4回】カルテ…

茨城県立中央病院・茨城県地域がんセンター
院長 永井 秀雄

私事で恐縮です。
 この秋、私の父は満百歳を迎えます。
 終戦直後に埼玉の片田舎で外科を開業。以後55年間、満92歳まで単身医院を守り、そして廃業しました。
 90歳のときの外来カルテが私の手元にあります(写真)。
 土曜日の夕方、足の親指の骨折を診ています。独りでレントゲンを撮り、処置を施し、消炎鎮痛薬を処方し、翌日の日曜日に再診しています。ドイツ語の部分は「裂隙骨折」、「シー



ネ固定」と書かれています。
 日本医事新報という医師会会員向けの週刊医学誌があります。ここに毎年、その年の医師国家試験の問題と解答が載ります。父は現役時代、医事新報で毎回、国家試験を解いて自分で採点していました。分からないことがあると、私に電話してきました。「おい、秀雄。コレス骨折って何だ?」
 国家試験に受かって20年過ぎれば、分らない問題が沢山あります。ましてや外科の専門分化が進み、外科医が整形外科を扱うこともなくなりました。「調べてから返事する」。
 これが精一杯でした。
 医師は能力の続く限り、生涯働く。生涯勉強する。それを示した父でした。
 もはや私には叶うべくもありません。しかし、意気込みだけは負けたくないと思っています。

病院紹介



化学療法センター開設にむけて

●化学療法センター準備委員長 小島 寛



当院では、平成20年12月のオープンに向けて、化学療法センターの工事が急ピッチで進んでいます。化学療法センターとはどういう施設なのかをご紹介します。

現在、がんは我が国における死亡原因の第一位であり、身内にがんの患者さんがいらっしゃる方はほとんどいないという状況です。がん治療のためには手術、放射線等の治療法がありますが、化学療法(抗がん剤による治療)も重要な治療法のひとつです。化学療法には様々な副作用が伴いますが、医学の進歩に伴い、多くの化学療法を外来で行うことが可能になりつつあります。私たちは、がんの克服のみならず、できるだけ苦痛を軽減した形で、患者さんが日常生活を営みながら治療を受けら

れることを望んでいます。

化学療法センターは、外来での化学療法が安全に効率よく実施できることを目的として開設される専門施設で、専任医師2名、看護師4名、薬剤師2名がチームを作って診療にあたります。今までよりも快適な環境で、さらに安全性を高めた形で治療を受けて頂くことができ、皆さんに様々な情報提供を行ったり、がんに関する相談をお受けしたりすることが可能になります。私たちスタッフは、がんの克服にむけて前向きに取り組みながら、患者さんにとって「優しい医療」が提供できるように心がけていこうと考えていますので、よろしくお申し上げます。

院内トピックス

キッズくらぶ インホスピタル'08 開催 平成20年7月26日開催



小学生とその保護者を対象とした医療の疑似体験を昨年度に引き続き開催しました。今回の体験を通じて、ひとりでも多くの子供たちが、将来、医療の現場を目指して頂き、県民の皆さんが当院を身近に感じて頂くと共に命の大切さを実感していただければ幸いです。



- 目的 ● ①医療現場を疑似体験することにより、未来を担う子ども達の医学への興味を高める。
②医療サービスの現場を見て、県民の医療に対する理解促進を図る。
- 日時 ● 平成20年7月26日(土) 10時~16時
- 場所 ● 県立中央病院
- 参加者 ● 小学生及び保護者24組52名
- 内容 ● 救急処置の見学、手術室体験、模擬診察、心肺蘇生法の実技等



運営に携わって

●キッズくらぶ インホスピタル'08実行委員長 久保田 泰央

今年のキッズくらぶは6月中旬頃から準備を開始しましたが、私たち研修医にとっては慣れない仕事であり、多忙な業務の合間を縫って行っていたために、なかなか準備が進みませんでした。いろいろとブースに関するアイデアは出てくるのですが、実際にそれを形にするまでには時間がかかり、採用されなかったアイデアも数多くあります。当日までに余裕を持って準備を進めようと考えていたのですが、結局前日まで仕事が終わらず、前日の夜は大急ぎで準備を進めました。

そのような中で開催されたキッズくらぶでしたが、今年も多くのお子様、保護者の方々にご参加いただき、医療を体験して頂くことができました。当日行われたアンケートでは、多くのお子様に満足して頂いたようで、実行委員一同安堵するとともに、この企画が来年も続いてほしいと考えております。

最後になりますが、本年度のキッズくらぶを開催するにあたってご参加くださった方々、ご協力くださった全ての方々に深く感謝申し上げます。

参加者の主な感想(アンケートから)

小学生

●最新の手術道具やAEDで体験をしたのが楽しかった。●僕も大人になったら医者になりたいと思った。●腹腔鏡ブースでのピースやいろいろなものを取ることが面白かった。体のことを知れてよかったです。

保護者

●医師の方々と患者側との溝のようなものをなんとなく感じていましたが、先生方の人間味を感じ病院が少し身近になった気がします。●手術室内で子供がものすごく興味を抱いていたのでびっくりしました。●今回の様な企画を体験する機会が非常に少ないので、是非続けて欲しいと思います。



●呼吸器内科
鎌木 孝之



「インフルエンザ」とは?

すこしやすすい秋が過ぎ北風が吹くようになると、インフルエンザの季節がやってきます。日本のインフルエンザは、毎年11月下旬から12月上旬頃に発生が始まり、翌年の1-3月頃にその数が増加します。発熱・頭痛・全身の倦怠感・筋関節痛などが突然現われ、咳・鼻汁などがこれに続き、約1週間で軽快するのが典型的なインフルエンザの症状です。他のウイルスが原因となる一般のかぜに比べて全身症状が強いのが特徴で、慢性疾患を持つ方や高齢の方には命に関わることもある重大な疾患です。

インフルエンザに対する治療として、原因ウイルスに対する内服や吸入の抗ウイルス剤があります。発症後早期に使用すれば発熱など症状を有する期間が短縮するようになりました。しかしこれらの薬は増殖したウイルスの広がりを防ぐことが主な作用ですので、病気を「治す」より「抑える」治療と考えられます。このようなことからインフルエンザに対しては治療よりも予防が重要と考えられています。

インフルエンザをはじめ人体に感染するウイルスなどの侵入の機会を少なくするためには、まず手を洗います。水道水によって石鹸で洗うことが基本ですが、石鹸がなくてもいねいに洗えば、かなりの効果が期待できます。そして清潔なタオルなどで手を拭くことが大切です。うがいも喉を清潔にし、粘膜をなめらかにしてウイルスなどの侵入の機会を少なくします。ウイルスの予防にはうがい薬は必ずしも必要ありません。マスクはウイルスなどの微小なものは通してしまいますが、つばきなど飛沫の侵入を防ぐことが可能です。マスクをつけたり手を洗うことは、少

し体調の悪い人が他の人へウイルスをうつさないためにも有効です。最近では「エチケットマスク」という言葉も使われるようになってきており、咳が出る方はマスクをすることが常識になりつつあります。

インフルエンザに対して科学的な予防方法として世界的に認められているものは、現行のインフルエンザHAワクチンです。発病を完全に防ぐことはできませんが、高熱などの症状を軽くし、合併症による入院や死亡を減らすことが期待できます。

13歳以上では過去にインフルエンザに感染して免疫が少しずつできてくると考えられるため、接種回数は年に1回でもよいとされています。13歳未満の場合は2回が原則で、接種の間隔は3-4週とされています。ワクチンの接種を受けてから体内の免疫ができてくるには2-4週間かかるので、インフルエンザの流行の前、11月頃に接種をすませておいたほうがよいでしょう。インフルエンザにかかりやすいのは子どもですが、かかった場合に重くなりやすいのは高齢者です。また、ぜんそく・肺気腫・心疾患・糖尿病などの慢性疾患を持つ人がインフルエンザにかかると、もともと病気が悪くなりやすいので、これらの方々も早めに接種しておくといえます。

インフルエンザワクチンによる副反応については、注射した場所が赤くなるのが10%程度、発熱など全身反応は1%以下で、死亡あるいは生涯にわたりハンディキャップとなる重篤な副反応の発生は、100万接種あたり1件未満と低率です。発熱のある方、重篤な急性疾患のある方、インフルエンザワクチンによるアレルギーのある方を除けば、皆様にインフルエンザワクチンの接種をお勧めします。なお、65歳以上の高齢者等には公費一部負担があります。詳しくは下記あるいは市町村にお尋ねください。



笠間市 ● 友部保健センター TEL.0296-77-9145
水戸市 ● 水戸市保健センター TEL.029-243-7311

職員対象の 接遇研修会を 開催しました

平成20年8月27日開催



私たちは、日々患者さんやその家族の方々と接しているなかで、多忙等により早口での説明であったり、説明内容を十分に伝えることができなかったりすることがございます。このような状況を改善し、人との接し方について円滑に行われるように、8月27日(水)、当院勤務の職員約140名が参加し接遇研修会を開催しました。講師の方からは、以下のような点について説明がありました。

- ① 当院のイメージは職員1人1人のイメージである。
- ② 職員の第一印象は3~6秒で決まる。
- ③ 人と接する時に、表情・視線・身振り等を配慮した話し方が重要である。

参加者の主な感想

●これから接する患者さん・スタッフへの接し方に気をつけていこうと思います。あいさつは自分から。●とてもわかりやすく質問者の方々への受け答えが参考になりました。「他に何かご不明な点はございますか?」使っていこうと思います。などの感想がありました。

今後とも皆様への接し方について、お気づきの点がございましたら、ご意見をお寄せ願います。

